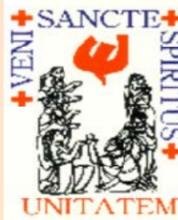


2014年5月11日 (第161号)
 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
 〒760-0074 高松市桜町1-8-9
 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
 Email
 教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
 広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
 生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
 WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
 愛は、心の奥に埋もれたままにしておくことは許されません。
 ともし火は、灯して
 ますの下に置くのではなく、
 家の中のものすべてを照らすために燭台の上へ置くのです。

第3回 高松教区召命の集い 小学生から青年まで34人 「神の呼びかけ」を学ぶ



宋助祭の話に耳を傾ける

今年もまた召命の集いが開催され、小学2年生から青年まで34名が諏訪司教をはじめ多くのスタッフに支えられ、自らの召命について学ぶひと時が与えられた。

今回のスケジュールは、教区神学生が担当し、始めに、宋神学生による司祭召命についてのお話と「神学生・神父様との交流プログラム」として、日本カトリック神学院・東京と福岡キャンパスでの神学生の生活や学びの様子を映像で紹介したり、自らの召命のきっかけをムービーを交えながら紹介した。その後、参加者の緊張をほぐすレクリエーションタイムを持ち、ゲー



レクリエーション笑顔のご挨拶

ムの中でお互いを紹介し合いながら和気あいなりの雰囲気でのレクリエーションとなった。その後、NHK放送番組で放映された「クリスマス神学生の選任式と執



奉納された祈りのボード

「タルチルドレン」を鑑賞した後、グループに分かれて、「クリスタルドルドレン」の場面の歌詞から各々の心を捉えた「言葉」を選び、分かち合った上で、各々の祈りとしてボードに記した。昼食をはさみ、自由時間と班活動を持った後、午後は聖堂に移動しミサに与った。このミサに於いては、青少年のみならず一般信徒の方々も、高山神学生の選任式と執

式は午前に行われた高松教区召命の集い(関連記事掲載)に続き午後2時半から、諏訪榮治郎司教と司祭団による共同司式の中で荘厳に執り行われた。



朗読奉仕者任命を受けるヨゼフ神学生



着衣を受ける高山神学生

助祭・司祭候補者に認定された高山神学生は式を見守るご両親と家族の前でスータンを着衣を受け、その喜びもひとしおの面持ちだった。続く朗読奉仕者選任式ではヨゼフ、ゴ・ヴァン・ティン神学生が選任を受け、司祭叙階への階段をまた一段登ることが出来た喜びに溢れていた。

神さまの大きな恵みに感謝
 奉仕者として選任を受けました。これは教区の皆さまにとっても、大きな喜びとなり、神さまからの励ましと恵みを強く感じられたことでしょうか。私たちは今日まで司祭職への召命の道を歩むことが出来ました。心から感謝しています。そしてこの4月から神学科2年生

そのうちの五つが必須となっていて、それは、助祭・司祭候補者認定、朗読奉仕者選任、祭壇奉仕者選任、助祭叙階、司祭叙階です。神学生が司祭への道を歩んでいくなかで、朗読奉仕者を経て祭壇奉仕者に選任され、更には助祭に叙階されて最終的に司祭へと到達していきます。

このたび朗読奉仕者として選任された私は、これから他の奉仕者と共に、共同体の先頭に立って、福音の証しに取り組みたいと思っております。来年は、祭壇奉仕者として選任を受けることが出来るように願っています。毎年一段階ずつこの司祭職への道をまっすぐ歩んでいくことが出来ますようにと、神様に委ねながら祈っていきたく思います。

しかしこの召命は、一人の努力だけではなく、共同体の支えがあってはじめて成り立つものです。司祭への道は共同体の皆さんの祈りの支えがあってこそ歩めるのです。どうぞ、わたしたちのために続けてお祈りをお願い致します。

3月21日(金)高松教区司教座聖堂において教区神学生2名の朗読奉仕者選任式と助祭・司祭候補者認定式がおこなわれた。式には教区内外から司祭修道者、神学生の家族、信徒が参列し喜びを分かち合った。

神学科2年生
 ヨゼフ・呉 文成
 2月には、いつくしみ深い神様の恵みの中で、多くの皆さまのお祈りとご支援に支えられて、宋新助祭が誕生しました。そして3月には高山神学生が、助祭・司祭候補者として、また私も朗読

になりました。勉強も少しだに難しくなってきましたが、頑張るつもりです。さて、司祭になる段階と朗読奉仕の任務について皆様と分かち合わせて頂きたいと思えます。

まず、第一点は、典礼祭儀で神の言葉を朗読し、出来るように願っています。第二点は教理を覚えて秘跡に与る準備をさせ、その第三点はまだキリストに歩んでいくことが出来ますようにと、神様に委ねながら祈っていきたく思います。

来年は、祭壇奉仕者として選任を受けることが出来るように願っています。毎年一段階ずつこの司祭職への道をまっすぐ歩んでいくことが出来ますようにと、神様に委ねながら祈っていきたく思います。

わたしたちは皆、若き日に高松教区の懐で福音に触れ、信仰共同体に呼ばれ、その宣教の場から修道召命への招きを感じました。そして、この信仰生活、奉献生活の歩みの大部分を、高松教区で苦業を共にしながら育んでいただきました。まさに、「ダイナミック・メモリー」——わたしたちの内に刻まれた神さまと多くの皆さまの愛と交わりに心から感謝しております。この喜びと恵みを大切に、ともに祈る日々を重ねていきたく思います。

朗読奉仕者選任式 助祭・司祭候補者認定式

聖ヨゼフ
 ゴ・ヴァン・ティン(神学科2年)
 アンジの聖フランシスコ
 高山徹 (哲学科2年)

修道誓願宣立 金・銀祝 おめでとうございます 聖ドミニコ修道女会

わたしたちは皆、若き日に高松教区の懐で福音に触れ、信仰共同体に呼ばれ、その宣教の場から修道召命への招きを感じました。そして、この信仰生活、奉献生活の歩みの大部分を、高松教区で苦業を共にしながら育んでいただきました。まさに、「ダイナミック・メモリー」——わたしたちの内に刻まれた神さまと多くの皆さまの愛と交わりに心から感謝しております。この喜びと恵みを大切に、ともに祈る日々を重ねていきたく思います。

- 金祝 Sr 白石 勝子
- 金祝 Sr 三原 芙美江
- 銀祝 Sr 宮武 信枝

高松教区辞令 第2次発令 4月1日付

- 司教総代理・神学生養成担当⇒イスマエル師
- 香川地区長⇒松永洋司師
- 西讃ブロック長⇒フェルナンド師(東讃B長・典礼委員長・教会法務担当)
- 神学生養成担当⇒赤波江豊師(観音寺教会・普通寺教会)
- ネルソン師(外国籍信徒宣教司牧)
- ロビンソン師(東讃B青少年担当)
- Sr高松常子(西讃B青少年担当)
- ホルヘ師(愛媛地区長)
- マリアノ師(新居浜教会)
- 伊予三島教会
- 東予B長⇒稲毛利之師(中予B長⇒ハビエル師)
- 中予B長⇒南予B長⇒南予B長⇒田中正史師(今治教会)
- 西条教会
- 東予B長⇒カナンバラ師
- 高知地区長⇒中島町教会
- 安芸教会
- 中村教会(兼任)
- イルダヤラシ師(高知地区青少年担当)
- クリスティ師
- 徳島地区長⇒乾盛夫師(地区青少年司牧担当)
- 地区一粒会担当
- 神学生養成担当⇒Br八木信彦(Bブロック)
- 東予B長⇒稲毛利之師(中予B長⇒ハビエル師)
- 中予B長⇒南予B長⇒南予B長⇒田中正史師(今治教会)
- 西条教会
- 東予B長⇒カナンバラ師
- 高知地区長⇒中島町教会
- 安芸教会
- 中村教会(兼任)
- イルダヤラシ師(高知地区青少年担当)
- クリスティ師
- 徳島地区長⇒乾盛夫師(地区青少年司牧担当)
- 地区一粒会担当
- 神学生養成担当⇒Br八木信彦(Bブロック)

訃報

(聖ドミニコ宣教師修女会)
 シスターマリア
 ホセフィーナ
 秦 笑子
 3月22日聖マルチン病院(坂出市) 帰天 1927年樺太で生まれ、51年

はばたき
 一斉に突然パッと開花し驚かせた今年の桜も散って、新緑の気持ちの良い季節となった。
 たまたま松山教会の70周年記念誌を手にした。戦後のある時期の信徒数の飛躍的な増加に驚いた。昭和23年から49年までの27年間の総受洗者数2293人、年平均では85人。昭和33年の年間受洗者数が189人と最も多く、100人を越える年がほかに8回もある。今では考えられない数字である。
 記念誌ではその要因を①戦後の社会思想の変化②カトリック経営女学校の功績③神父さま、シスターの清い生活からの影響④教会の社会適応への動きなどをあげている。
 戦後、人々は『どう生きるのか』を求めて教会を訪れた。カトリック経営の学校でのシスターたちの働きは生徒だけにどまらず親や兄弟、地域社会にまでキリストの光を広げる結果をもたらした。教会での神父さま方の清貧な生きざまにキリストを発見する人々もたくさんいた。
 ここには日本の福音宣教の原点があるのではないかと、信者が減る高松教区が今ここから学べるものは何かないのだろうか。溝部司教様が語る『歴史に学び、ことを成す』手がかりがあるかもしれない。

若い力

カンボジアスタディーツアー 「ふれあい・ボランティア・学び」 高松教区・他教区から総勢12人参加

JLM(日本カトリック信託宣教師会)企画のカンボジア・スタディーツアーに、3月22日から31日まで参加しました。高松教区からは神学生3名、青年3名、ブラザーの計7名、大阪教区からは司祭2名、青年2名の計4名、広島から青年1名の総勢12名でした。

ふれあい(現地の人々との出会い・交流)、ボランティア(子ども教育活動にボランティア参加)、学び(歴史と文化を学び、平和について考える)の三本柱を中心に、主な訪問地や活動は、プノンペンでの現地学生との交流、ゴミ集積場における衛生教育見学、ポルポト時代の刑務所やキリングフィールド見学、トンレサップ湖の水上集落(水上教会や水上学校訪問、地方の町(首都から200キロ)でのホームステイ、ポルポト政権による神父殉教地訪問、アンコールワット見学、戦争博物館見学、地方の村(首都から300キロ)での子ども教育プログラム見学等でした。

以下、日ごとのスケジュールに参加者のレポートで追ってみましょう。

3月23日(日) ミサ(プノンペンの学生たちと合流)マーケット・王宮など見学、学生寮にてスポーツ大会・ワークショップなど、学生寮にて夕食
番町教会 河合 幸

カンボジアで初の朝を迎えた。ミサに与るため生きたは私のつたない英語に最後まで耳を傾けてくれ、常にこちらを気遣ってくれていた。一緒に踊った阿波踊りのあの一ととを私は決して忘れない。ただただ唯然とするしかなかった。

言葉が違っていてもミサはミサだ。ギターや笛などの楽器と聖歌隊の美しい歌声。スタディーツアーの初日の朝一番にミサに与ることができ、喜びを感じた。プノンペンの学生たちとの交流はとて



学生交流会での阿波踊り

3月24日(月) プノンペン郊外にて、ゴミ集積場と隣接する村における衛生プログラム(母親センター視察)ババヘアイス(屋台)試食(トゥールスレン刑務所見学)キリングフィールド見学
松山教会 深堀景應

私達はカンボジアの首都、現場を見学した。亡くなったプノンペンの郊外の人々の骸骨、拷問の描写や器具、とられた人々の写真など生々しい負の遺産を目にした。人はどうしてこんなに残酷に刑務所、拷問を行いキリングフィールドにて大量虐殺をした場所などを訪れた。

人々がごみ拾いで生計を立てているごみ集積所ではJLMがここで暮らす人々を支援していた。子どもたちに識字教育を行ったり、屋台を提携したりなど現地の人々と寄り添って活動していた。



着ゴミ集積場近辺に住む子ども達

3月25日(火) コンボルアン(水上集落)へ移動(水上教会活動見学)子ども達と交流会(水上集落訪問)コンボルアン水上教会泊
桜町教会 渡邊信

午前9時頃、プノンペンに別れを告げて、トンレサップ湖の水上村に向けて出発。3時間ほど目的地のトンレサップ湖への入り口である船着き場に到着。そこからボートに乗って水上村へ向かった。10分ほどボートに揺られていると広大な湖にボツリと浮かぶ建物の集落が見えてきた。村の中

その後、水上村について話をJLMのスタッフから伺ったあと、ボートに乗って水上村の周りを見学した。時刻はちょうど夕暮れ時だった。トンレサップ湖から見た夕日は本当に美しく、そしてまた教会へ戻りみんなで晩御飯を頂き水浴びをした。星空のもとみんなで語り合ったあと、それぞれ寝た。翌朝、教会で行われている識字教室を少し見学した。



水上集落から見た夕日

午後からはバタンバンに向かいました。途中、1つの巡礼地を訪問しました。1978年、当時のバタンバン教区の司教様が、クメール・ルージュに殺害された場所です。皆で祈りの時を持ちました。翌朝、周辺を散策すると、のどかな農村風景と荘厳な仏閣を目の当たりにしました。

私達は、お喋りや買い物した後グループに分かれ、ラチャナの従業員の方のお宅に泊めて頂きました。

3月27日(木) 朝食(各家庭で)ホストファミリーとフリータイム(シェムリアップへ移動)シェムリアップ到着(ホテルにて小休憩)3月28日(金)終日アンコールワット
ヨセフ神学生

私たちは、バタンバンから、有名な観光地シェムリアップへ移動しました。ここにはユネスコの世界文化遺産に登録されたバイヨン寺院、アンコールワット、タ・プロムがあります。わたしたちは早朝5時、アンコールワットの朝日を鑑賞しようと出発しました。到着後、アンコールワット寺院に日が昇るところを撮影出来ました。その後アンコ

アンコールワットやその周辺の遺跡群を見学し、午後は戦争博物館へ行きました。博物館と野外にたくさん戦闘機、戦車、武器や地雷も展示されていて、実際に触ることができるようになっていました。



アンコールワットにて

アンコールワットやその周辺の遺跡群を見学し、午後は戦争博物館へ行きました。博物館と野外にたくさん戦闘機、戦車、武器や地雷も展示されていて、実際に触ることができるようになっていました。

アンコールワットやその周辺の遺跡群を見学し、午後は戦争博物館へ行きました。博物館と野外にたくさん戦闘機、戦車、武器や地雷も展示されていて、実際に触ることができるようになっていました。

アンコールワットやその周辺の遺跡群を見学し、午後は戦争博物館へ行きました。博物館と野外にたくさん戦闘機、戦車、武器や地雷も展示されていて、実際に触ることができるようになっていました。



地雷を持つ戦争博物館ガイド

カンボジアでの体験学習について少し感じたこと習プログラムとしては最も述べたいと思います。後だったタオム村の訪問

ださった二人の老夫婦からタオム教会の歴史についてお話を聞きました。同じカンボジア人同士で殺したり、強制移住させたりした、カンボジアの悲しい歴史が教会に銃痕と共に残っていました。その中で教会を守った人々のために自分ができることは何だろう。もし、自分がその環境に置かれたらどうしたんだろう。

その後、子供たちと交流会をしたり、村に住んでいる人々の家を訪問したりしました。まだ、中学生ぐらいの若者たちが家族を養うために命をかけて、パスポート



タオム村の人々とその教会

主日のミサに与りました。洗礼式が行われていて、少し長く感じられました。今日は最終日。アンコールワットのあるシェムリアップは一大観光都市なので、お土産等の買い物に少し時間をとりました。そして、建物と庭がゆっくりと配置されているイエス会の黙想の家に行き、一同で旅の振り返りを行いました。旅の中で色々な体験を共有でき、その参加者の分ち合いはとて有意義なものでした。違った視点のとらえ方や新

カンボジアで伝統舞踊を鑑賞し、シェムリアップ国際空港からソウル経由で帰国の途に着きました。



カンボジア伝統舞踊

